



皆さんは、「里海」という言葉を知っていますか？

私たちは昔から、海の恵みを受けて暮らしてきましたが、今、「海と人とのつながり」が失われてきています。

私たち「里海コンシェルジュ」は、海と人とのつながりを取り戻しながら、「美しい海」、「生物が多様な海」、「交流とにぎわいのある海」を目指し、里海づくりが県内全域にもっと広がるように、様々な活動を積極的に行っています。

そんな私たち里海コンシェルジュが出会った、里海づくりを共に盛り上げる素敵な仲間たちを、皆さんに紹介していきます。

「100年先も美味しい魚を食べ続けてほしい」

と願う底びき網漁師 西谷明さんのお話①

〈海底堆積ごみ回収・処理システムが出来上がるまで

「『前向き』なのが香川県方式！」編〉

高松市瀬戸内漁業協同組合 副組合長 西谷明さん

かがわの里海コンシエルジュが今回お伝えするのは、「香川県方式の海底堆積ごみ回収・処理システム」にも協力を惜しまない、「前向き」な、そして「海を愛する」漁師さんのお話です。

「香川県方式の海底堆積ごみ回収・処理システム」は、漁業者がボランティアで持ち帰った海底堆積ごみについて、行政が運搬・処理の役割を担うという、「漁業者×行政」が力を合わせて香川県の海底堆積ごみ問題を解決しようとする、「全国初」の取り組みで、平成25年5月から始まりました。

いわゆる「香川県方式」が出来上がるきっかけには、「100年先の漁師も安全でおいしい魚を獲って、それをみんなに食べてほしい」と願い、「漁師が天職や!」と言い切る、「前向き」な「海を愛する」漁師の気付きと行動がありました。

西谷明さん(68歳)は、高松市瀬戸内漁業協同組合に所属する底びき網漁師。私たち里海コンシエルジュはこれまでも、「かがわ里海の幸(写真1)」の取材などを通し、西谷さんから、海の環境や底びき網漁のこと、海底にあるごみの話などたくさんのお話をお聞きしてきました。西谷さんのお話は話題も豊富で、そして何より面白い。この面白さをぜひみなさんにも知ってほしいと、香川大学と香川県が共同で運営する「かがわ里海大学」の講座(写真2、3)でもお話ししてもらったほど。



【写真1】



【写真2】



【写真3】

【写真1】かがわ里海の幸リーフレット表紙(西谷さんに取材したシタピラメ編はかがわの里海づくりHPからもご覧になれます。)

【写真2】かがわ里海大学「里海を大いに語り合う講座(2020年9月5日)」の様子。西谷さん(左)の白シャツ姿も凛々しいです。

【写真3】「里海を大いに語り合う講座」では、ファシリテーターが西谷さんのとっておきの話を聞きだしながら、受講者も一緒に活発な語り合いができました。

2020年10月下旬に、改めて西谷さんに取材をさせてもらいました。

(里海コンシェルジュ)「まず、西谷さんが海底堆積ごみに携わることになったきっかけについて教えてください」

(西谷さん)「20年くらい前かな。漁で網を上げたときに、ナイロンの袋の中に入った鯛やヒラメがバタバタと苦しんでいたのを見て、海底も同じような状況ではと思ったんよね。ナイロンや空き缶などのごみも潮の流れで移動するでしょう？ごみが魚を傷つけているんじゃないかと思ったのが、最初のきっかけ」

(里海コンシェルジュ)「なるほど、見えない海底の様子に思いを馳せたのがきっかけと。漁師であり、海を愛する西谷さんならではの視点ですね」

(西谷さん)「これではいかんと思って。網にひっかかったごみを、ごみの日に分別して出してたんよ。でもテレビとか、大きなごみの扱いには困ってしまって、市や県の人にゴミ収集場所を作ってくれないかと相談したの。でも『逆に不法投棄のごみが増えてしまう』と反対されてしまった。それから、自分でできる範囲でごみの処理をしていただけでも、自分だけでは限界があつて。諦めきれずにまた相談したら、県海ごみ対策をしている部署につながって、『ごみを集めるコンテナを置きます。漁師さんにごみを持ち帰ってもらおう袋を配布します』って、一気にシステム化(写真4、5)が進んだんよ」

(里海コンシェルジュ)「なるほど、そうやって香川県方式が出来上がっていったのですね」

(西谷さん)「でも、不法投棄の問題も出てきて。ごみ置き場のコンテナに監視カメラを取り付けたりしてね。やっぱり、これで終わり、万々歳、というわけにはいかない。今はコンテナを置かずに、船や漁協の前に集めたごみを直接収集してもらってる。その時その時に、工夫しながら進める。諦めない。だから“前向き”なのが香川県方式ってこと」

“前向き”なのが香川県方式！今回の記事の題名がひらめいたぞ…と、ここで記事の文字数制限がいっぱいになってしまいました。「西谷さんが漁師になったきっかけ」の面白いお話もあつたのに！次回に持ち越しです。皆さんお楽しみに！



【写真4】



【写真5】

【写真4】西谷さんが集めた海底堆積ごみ。プラスチック製のペットボトルなど、私たちになじみのある生活ごみが多いです。

【写真5】漁から戻り、ごみの仕分けで一日を終えます。